

## 自動車部品とエンターテインメント事業を 柱に、高度な技術を融合し、 他では真似できない製品を開発！



代表取締役 社長

小杉 昌弘さん  
Masahiro Kosugi

やまと興業株式会社  
浜松市浜北区横須賀1136  
Tel.053-586-3111



### 農鍛冶屋から発祥し、幅広い先進技術を構築

やまと興業は1944年に創業。コントロールケーブル、パイプ加工、樹脂射出成形、金型、内製機械の製作と多種のトップ技術を融合し、他メーカーには真似のできない製品を製造している研究開発型企业だ。

同社は農機具類を製造する鍛冶屋からスタートした。鉄をコークスで炙り、ハンマーで叩いて形づくっていく鍛冶屋はどのような形状にも加工できるのが強みである。そのため発祥当初から道具も機械設備も全部自分たちで作るという意識が強いとは社長小杉昌弘氏の談。プレス機でさえ自前で製造してしまう徹底ぶりだ。こうした姿勢が幅広い分野での技術の蓄積に貢献してきた。

1955年、ヤマハ発動機が浜北に工場を設立した際、鉄を細工する技術が買われて、治工具や台車をはじめ、工場内の様々な設備を製作してきた。そして着実に信頼を勝ち取り、現在でも主力事業となっているコントロールケーブルの受注に成功。オートバイ産業の勃興機にヤマハ発動機の協力工場となり、部品メーカーとしての礎を築いた。またパイプ加工技術も修練を積み、精度・耐久性が求められるエンジン周りの重要部品の製造も行っている。

### オリジナル商品のLEDが3本目の柱に成長

やまと興業の「やまと」は日本という意味、「興業」は世の中に貢献できるのならどんな事業でも興せば良い、業種を限定しないために興業にしたとのこと。創業者小杉弘氏の理念どおり、やまと興業は二輪・四輪の部品メーカーの枠にとどまることなく、LED製品や粉末茶の製造等、オリジナル製品の開発・製造・販売にも意欲的に取り組んでいる。



「自社商品の開発は社員たちの長年の夢でした。そこで創業50周年にあたる1995年にオリジナルブランドの自社商品を生み出そうと新規事業に着手しました。世界初のLEDペンライトはこうした活動の中から生まれてきました」と小杉社長。しかし、技術に自信はあっても営業力は弱かったとのこと。試行錯誤するうち次第に運にも恵まれ、LEDペンライトはSMAP等のジャニーズのコンサートで爆発的な人気を獲得した。現在は憧れのテーマパークでも同社の製品が多数採用されるまでになった。

また、やまと興業では自社製粉末茶の販売も行っている。スーパーミクロン製法による超微粒子粉末緑茶は冷水にもさーっと溶けるのが特徴。さらに花粉症に効果が認められているべにふうき茶を粉末にした機能性食品も好評だ。



### この会社で幸せをつかもう

2002年、世界を相手に仕事をする事とし、中国、ベトナム、インドネシアに生産拠点を展開した。2008年には創業者小杉弘生誕100年の集いを開催、創業の原点を見つめ直すと共に更なる技術革新と社員の団結を確認した。

「ものづくりは人づくり・夢づくり。この会社で幸せをつかもう」と社員に言い続けてきた小杉社長の挑戦はまだまだ続きそうだ。

## お客様のかゆいところに手が届く きめ細やかなサービスと あたたかな心遣いで信頼を築く



代表取締役  
**瀧 幸仁さん**  
Yukihito Taki

有限会社瀧商店  
浜松市東区中野町869  
Tel.053-421-0050

### 地域に根ざし、人と人の繋がりをテーマに展開

瀧商店は、昭和初期、三代目の祖父にあたる瀧有平氏が練炭や炭の販売をはじめたのが発祥である。そして二代目瀧脩吾氏が1950年代にプロパンガスの販売を開始した。プロパンが薪や炭にかわる燃料として家庭に普及しはじめた頃だった。そして1973年に法人化し、2007年に瀧幸仁氏が事業を承継し代表取締役となる。現在はプロパンガスを柱としながら、住宅設備機器の販売や太陽光発電の販売、そしてリフォームと、事業フィールドが広がっている。

「昔は、ご用聞きの酒屋さんや米屋さんが勝手口から入っていましたが、現代においては、私たちのようなガス屋が台所まで入って提案できる唯一の業界かもしれません」と社長。瀧商店は90余年の間、地域に根ざして、お客様のかゆいところに手が届くサービスをモットーに展開してきた。「蛇口の水漏れを直して欲しい、停電でビデオの時計がズレたから直して欲しい、電球を取り替えて等々、様々な頼まれ事をされるうちに扱うものが増え、リフォームにも対応できるようになりました」。現在では大工、水道、钣金、電気、タイル、クロス、サッシなど、各協力業者によるリフォームチームが構成されているという。



しかし、単に改築するのではなく、あの家のおばあさんは腰が悪いから、コンセントの位置をかがまずに差し込める高さに付けてあげたい等、随所に瀧商店のおもいやりが息づいているのが特徴だ。

「家の中で作業しているのに、買い物に出てくるから、終わったら鍵かけてポストに入れておいてとか、明日は留守にするからこの合鍵で開けて入ってちょうだいと鍵を渡されることもあります」と瀧社長は笑顔で話す。どんなに時代が変わっても、人と人のつながりは絶対に切れることはない。ネットで何でも手に入る時代だからこそ、人とふれあうビジネスはむしろ重要になってくるに違いない。

### 消防団や花火大会の実行委員長として地域貢献

瀧社長は仕事以外でも地域のために活動されている。1996年から消防団に所属し、現在は浜松市消防団の副団長として尽力。さらに中野町煙火大会の実行委員長としても活躍中だ。中野町煙火大会は、有志が集まって開催される手作りの花火大会で江戸時代からの歴史がある。「4月から寄付集めや準備で忙しくなりますが、中野町の伝統を守っていくためにもがんばります」と社長。今年も8月14日に、国一天竜川橋南にて約4,000発もの花火が夏の夜空を彩る。ぜひ、皆様、足をお運び下さい。

